



vol.37
2025.10

美 び さん

広島県看護協会三原・尾道支部会員数

保 健 師	22人(入会率14%)
助 産 師	35人(入会率62%)
看 護 師	1,655人(入会率52%)
准看護師	95人(入会率 9%)
合 計	1,807人(入会率41%)

支部長挨拶



森数 充代

〔公立みつぎ総合病院〕

こんにちは、今年度より支部長を拝命いたしました、公立みつぎ総合病院の森数充代と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

日頃より、当支部活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。大変感謝しております。

ところで、皆さんは支部の活動に参加されたことはありますか？私は、昨年度社会経済福祉担当支部役員として、他の施設や病院の役員と支部活動を行う上で、多くのことを学び、達成感を

味わうことができました。

令和7年度の事業計画は、医療安全研修、感染管理、救急蘇生研修やりハビリ（看護師の腰痛や肩こりの軽減）の研修、交流事業として、臨床心理士によるメンタルケアなどを予定しています。是非参加していただけたらと思います。その他に、地域看護事業として、まちの保健室や三原市民保健福祉まつり、尾道市民健康まつりに参加し、地域とのかかわりを持つ機会もあります。

これからも、会員の皆様の声に耳を傾け、地域、施設や病院など他職種との連携の機会を設け、支部活動が充実したものとなるように、支部役員一同取り組んでいきたいと思っています。

支部担当理事挨拶



柿本 文重

〔JA尾道総合病院〕

平素より広島県看護協会及び三原・尾道支部の活動にご理解とご協力いただきありがとうございます。今年度より支部担当理事に就任いたしました。微力ではありますが、役員の皆さまとともに、一生懸命努めて参りたいと思います。

2025年となり、次は2040年に向け、日本看護協会から「新ビジョン」が公表されました。生

産年齢人口の急激な減少とさらなる高齢化により、私たち看護職に対するニーズは増え続けていきます。その中で、看護職としての役割を果たしながら、働き続けられる環境づくりが必要となっていきます。支部担当理事として、会員皆さまのご意見を受け取り、看護協会へ繋げていけるよう尽力していきたいと考えております。

支部事業が会員同士、施設間、多職種との情報交換やリフレッシュの場となるよう活動して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

三原・尾道支部 活動報告

総会後研修「心が折れそうなき仕事・子育て・介護を続ける3つのヒント」を聴講して

尾道市立市民病院

奥田 倫子

人生にはさまざまな「心が折れそうなき時」があると思います。そのような時、「苦しいな」「辛いな」となかなか抜け出せないこともあります。私は講演の案内を見て、折れない心を育てるヒントを得たいと思い研修に参加しました。

講演の中で、苦しみとは「希望」と「現実」の開きであり、「解決できる苦しみ」と「解決できない苦しみ」に分けて考えること、苦しみがあっても「支え」があれば穏やかになれること、その支えには「支えとなる関係」「選ぶことができる自由」「将来の夢」の3つがあることを、ワークシートを通して学びました。そして苦しんでいる人は自分の苦しみを「わかってくれる人」つまり「聴いてくれる人」がいると嬉しいもので、それには相手の言いたいことをキャッチし言葉にして返す「反復」が効果的であることをグループワークで体感することができました。

苦しい時に相手が求めているのはアドバイスではなく「聴いてくれる人」だということを念頭に置き、まず相手の言いたいことをしっかり聴いてキャッチすることが支えとなる第一歩であると思いました。

今回の研修で学んだことを活かし、日々の看護においても患者さんが苦しい中でも少しでも穏やかでいられるよう傾聴に努めていくと同時にスタッフとも支え合える関係を築いていきたいと考えています。



社会経済福祉研修会に参加して ～チームワークと医療安全～

社会医療法人 里仁会 興生総合病院

医療安全管理室 仲西 樹

令和6年8月3日に開催された社会経済福祉研修会「チームワークと医療安全」に参加いたしました。今回、研修会に参加した動機としては医療安全管理室に勤務していること、また上司から「日山先生は有名で、とても研修会が面白いので参加してみない？」と声をかけていただいたことがきっかけでした。

研修会では、実際に起きた医療事故事例を基に、チームワークを築き上げるためには何が必要か、医療の質を高めて医療事故を減らすためにはどのようにすれば良いかを学びました。優れたパフォーマンスをするチームワークは、「チームにおける暗黙の協働」と言われていました。それは、課題遂行に際しメンバーが進捗状況を確認しながら次に行うべき適切な行動を取り、お互い言動に注意を払い合う。また、間違いがあれば指摘、確認、修正し個人レベルに起きたミスやエラーがチームレベルの事故への発展を防ぐことができる。そうすることで、チームワークが医療安全に繋がるということでした。

この度は、一部の紹介となりましたが他にも多くのことを学び、今後の実践にも役立つユーモアたっ

ぷりな、笑い溢れる楽しい研修会でした。皆さんも機会があれば参加をお勧めします。



【日山先生考案の手法紹介】

患者や同僚からの相談を受けた時の対応方法として「うなじゅうって どう?法」

★うな(うなずいて)じゅう(十分聞いて要約、質問)って(提案)し(最後に)どう?と伝える手法です。

関連職種地域連携研修会 「ACPIについて」に参加して

因島医師会病院 倉本 由美香

私は今回、アドバンス・ケア・プランニングという「人生の最終段階における医療やケアについて、前もって患者本人と家族または信頼する人がケアチームと話し合い、共有する取り組み」について学びました。

私が勤務する病棟には、がん等の終末期にある患者や、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症など神経難病の患者、自分自身で意思を伝えられない患者や認知症のある患者が入院しています。患者には、それぞれ歩んできた人生があり異なる価値観や背景があります。個々の患者にとっての価値や人生の目標、医療に関する望みを理解して共有し、その後の生活や医療に反映することが大切だと改めて感じました。また人の希望や思いは変わることもあります。患者の健康状態や生活が変わるタイミングで、繰り返し患者・家族と話し合い、意思を共有すること、またそれと同時に、患者の希望に家族が対応できるかどうかの見極めも必要です。

意思決定を支える力は、私達が看護実践を行う上で必要な能力のひとつです。今回の研修では、患者・家族に寄り添うために必要な「10の人間力」を学びました。聴く力、共感する力、受け入れる力、思いやる力、理解する力、耐える力、引き受ける力、寛容な力、存在する力、ユーモアの力。私も医療従事者として、10の人間力を意識し、患者や家族に寄り添う意思決定支援ができるよう努力していきたいです。また今回の学びをスタッフ間で共有し、より良いケアに活かしていきたいと思います。



交流事業 「苔テラリウム」に参加して

医療法人 杏仁会 松尾内科病院
坂田 由美

令和6年12月7日に交流事業の「苔テラリウム」に参加させていただきました。

「苔テラリウム」の研修会に参加すると決まった日から、中に入れる小物はディーラーで頂いた愛車のミニチュアにしようと思っていていました。

苔テラリウムで使う苔は、私たちが日ごろ目にするものとは種類も性質も異なるもので、苔にはそれぞれに名前があり、直射日光では変色してしまう非常にデリケートなものであること、植え付ける土は無菌状態で苔の生育に適した専用の土であることなど、初めて知る様々な情報は、普段、現場であわただしく走り回っている私たちにとってはとても新鮮なことでした。

グループ毎に配られる材料を見て「これは何?」「どう使うの?」とにぎやかで興奮気味でしたが、講師の説明に感心や納得しつつ次第にグループ内は無口になり黙々と作業にのめり込んでいました。

思いとは違う配置になってしまった苔やきれいに盛り上げたのに崩れてしまった白砂に、一生懸命に語り掛け、納得し満足し、直径10センチ高さ15センチのガラスの円柱の中に小川の流れる森が完成しました。

愛車で緑の中を走り抜けて河原で車から降り、せせらぎや小鳥の声を聴きながら冷たい水の中を歩いてみる、そんな自分を想像し近いうちに叶えたいと思っています。



令和7年度 事業計画

研修事業

- 支部総会後研修会／4月19日
「琉球民謡」演奏
- 社会経済福祉研修会／8月9日
「医療安全」
- 救急蘇生研修会／9月13日
- 組織強化研修会／11月8日
「仕事に役立つ体づくり」

研究事業

- 看護研究発表会／令和8年3月7日

看護広報事業

- 進路相談会／7月26日
- 支部だより発行／10月31日

関連職種地域連携事業

- 関連職種地域連携研修会／10月11日
「感染管理」

交流事業

- メンタルケア／12月13日

地域看護事業

まちの保健室

- イベント型
- 三原市民保健・福祉まつり／10月25日
 - おのみち市民健康まつり／11月9日
- 常設型
- フジグラン三原
 - 尾道市総合福祉センター

令和7年度 役員紹介

役員集合



役員名	氏 名	所 属
支部担当理事	柿本 文重	JA尾道総合病院
支部長	森数 充代	公立みつぎ総合病院
副支部長	田代喜久恵	三原赤十字病院
副支部長	坂本 富江	興生総合病院
幹事(総務)	長谷 茂	公立世羅中央病院
幹事(財務)	河戸 綾	本郷中央病院
幹事(社経)	松本 千晶	尾道市立市民病院
幹事(社経)	安部江美子	因島医師会病院
幹事(社経)	新谷 圭子	介護医療院白龍湖
幹事(教育)	谷川 裕子	広島県厚生連尾道看護専門学校
幹事(教育)	桑原みち子	JA尾道総合病院

編集後記

会員の皆さまのご協力のもと、広報誌「美三37号」を無事に発行することができました。支部活動として皆さまが安心して働き続けられるような職場環境づくりの取り組み、学びにつながる研修会を企画・開催してまいりました。日々の忙しさの中でも、少しほっとできたり、「やってみよう」と思えるきっかけになるような活動を目指しています。これからも、皆さまの声に耳を傾けながら、多くの方に喜んでいただけるよう取り組んで参りますのでご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

松本 千晶・安部 江美子・新谷 圭子

〔発行日〕令和7年10月31日発行

〔発行所〕公益社団法人広島県看護協会
三原・尾道支部事務所
〒723-0014 三原市城町3-1-1-210号
TEL/FAX:0848-64-1616
E-mail: s-mihara@nurse-hiroshima.or.jp

〔発行責任者〕森数 充代